

10月号パラパニュース

特定非営利活動法人日本パラ・パワーリフティング連盟

事務局：〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2-4F

電話：03-6229-5423、FAX：03-6229-5420

メール：jppf.jimu@gmail.com

ホームページ：http://jppf.jp/

北九州2018ワールドパラパワーリフティング アジア・オセアニアオープン選手権大会

写真：西岡浩記

記者会見

9/5、会場設営から、アジアオセアニア大会は始まった。シミズオクトさんはじめ、舞台づくりのプロが設営を開始する中、小倉城を一望できる、ホワイエでは、北九州市の皆さんが中心になって、今大会の記者会見が開催された。役員側としては、ワールドパラパワーリフティングを代表して、ホルヘ・モレノ氏、カマルザマン・カディール氏が出席し、今大会の概要を述べた。



連盟からは吉田進理事長が大会開催の挨拶、北九州市からは、北橋健治市長にご出席いただき、市制55周年にあたり、北九州市におけるこの大会の開催意義を述べていただいた。

選手代表の皆さんには、この大会への意気込みを語っていただき、多くの記者の皆さんからの質疑に対応いただいた。

出席選手；

男子49kg級、ルバンコン（ベトナム）

男子107+kg級、シアマンドラーマン（イラン）

日本選手代表

男子49kg級、三浦浩

女子55kg級、マクドナルド山本恵理



FOP（舞台）



舞台は、中央に大きな画面を設け、記録、選手の表情、試技を映し、両サイドにはパナソニックさんのご協力で、競技進行情報や、盛り上げ映像を表現していただいた。また、基本コンセプトデザインは、飯田さん。その応用デザインは古山さん。毛筆タッチのデザインや色使いが、日本人独特の柔軟さを表し、大変、日本らしい舞台ができあがった。

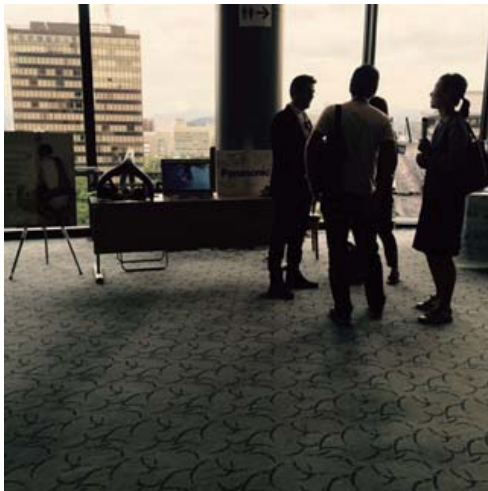
全体的に照明を落とし、効果的に選手をライトアップする手法は、選手を浮き彫りにし、選手の感じているプレッシャーや集中力が、観客に伝わり、選手と観客が

一体感を味わえる演出になっていた。反省点としては、全体に暗い設定のため、陪審員の手元が暗く、各陪審席に手元を照らす照明を準備すべきだった事が上げられる。

とはいえ、心にしみる映像、演出、そして、西岡浩記さんの撮る写真にワールドパラパワーリフティングチームは、大変、喜んでくださり、「クール、クール」を連発しておられた。

連盟としては、「試合進行」に集中するあまり、セレモニーに落ち度があったが、2020 東京組織委員会の方々、ニッポン放送





ATOUN さんのアシストスーツブース。IPC のホールへも立ち寄り、アシストスーツの説明を受ける。(写真上)

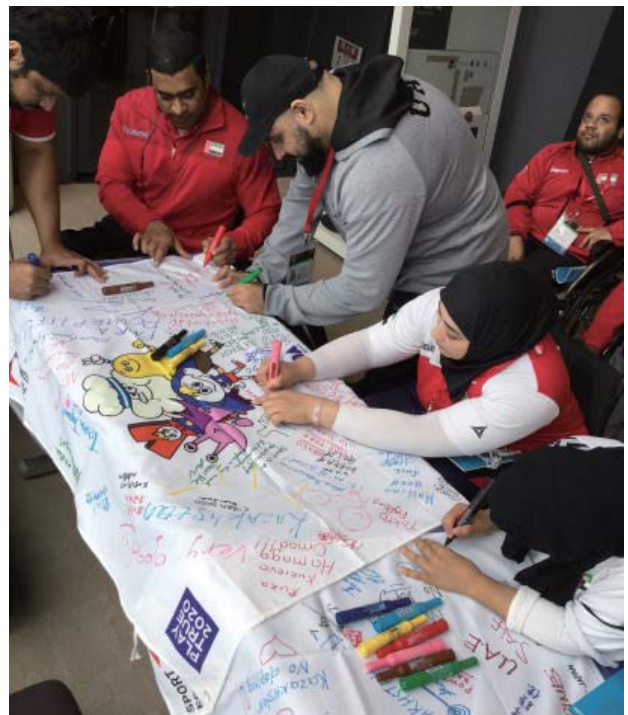
「雨上がりのステップ」支援金を頂き、大会実施に必要な経費に充てさせて頂きました。

プロジェクトチーム、今回の演出チームの皆さんに助けられ、無事切り抜けることが出来たが、この点は、連盟として、大きな、大きな反省点となった。

大ホール舞台上で、連日、選手の熱い戦いが繰り広げられていた一方で、ロビー（ホワイトエ）でも様々な活動が行われた。



アンチドーピング活動の実施





今大会バックボードデザインと、スポンサーロゴデザイン



* 審判試験

大会に先立ち、ヨルダンのアザム講師を迎えて、IPC 公認国内審判員試験を実施しました。その結果、次の方々
が合格され、今後の JPPF 並びに IPC 主催大会に審判として、スタッフとしてご活躍をお願いすることになりました。

合格者； Yasuharu Furuta Yungoung Kim
 Yoshihiro Anan Yasuto Fukushima
 Masayuki Kawai Eri Macdonald Yamamoto
 Masashi Shinoda Richard Mason

日本選手の結果



女子 41 kg 級 失格 成毛美和

チャレンジカップでアジアパラ標準を突破し、アジア大会で力試し、アジアパラでメダルを狙いに行く、そういう作戦だったが、胸の止めをとられ、失格。48 kg スターとは、軽く、問題のない重量。あと一ヶ月、アジアパラで白をもらえる試技を学び、インドネシアで羽ばたいて欲しい。



**女子45kg級
8位 小林浩美
58kg**

さすがに日本女子の第一人者、きっちりと試技を自分のものとし、8位入賞。世界選手権への切符は57kg以上。

こちらは獲得済みなので、2019年世界に向けて、始動！

理論派中嶋選手、納得の練習で、自己ベスト更新。本人はもう少し上げたいようだったが、アメリカ選手権にエントリー、アメリカでの活躍に、請、期待。



**女子50kg級
10位 中嶋明子
52kg**

**女子55kg級
失格**

マクドナルド山本恵理

まさかの失格。昨年より実力を10kg以上つけてきていたので、本人も周囲も、期待が大きかっただけに、ショックも大きい。失格を反省に、アメリカ選手権での、大躍進を待ちたい。





**女子67kg級
7位 森崎可林
50kg
(ジュニア1位)**

**女子73kg級
5位 坂元智香
67kg**



若干15歳、森崎可林選手。一本目の試技は失敗。「何がなんだか分からず、会場の雰囲気にも飲まれてしまい、自分を見失っていた。」と、振り返る。二本目以降は、しっかりといつもの通りの試技をして、50kgに成功。本人の持つ日本記録を14kgも上回った。ジュニア部門では1位だったが、記録が標準記録に達しなかったため、メダルはもらえなかった。今後の森崎選手の目標は、60kg（リージョナル選手権の標準記録突破）、67kg（世界選手権の標準記録突破）この数値を念頭に、来年の全日本（2019年2月2-3日）を目指してもらいたい。

思いをそのまま、試技にぶつけることの出来る、73kg級の坂元選手。陸上からの転向で、パワー暦は1年と浅いが、スポーツに挑む姿勢は陸上で鍛えられている。判定の厳しい中、全ての試技を成功させ、アジア標準突破、大会後は、連盟強化指定選手Bとして、再出発。

女子選手で、東京パラリンピック参加権利を獲得しているのは、成毛選手、小林選手、中嶋選手、マクドナルド山本選手、森崎選手、坂元選手。来年5月のチャレンジカップまでに、世界選手権標準記録を突破すれば、さらに、東京が近くなる。

それぞれの、数値を胸に、しっかりとトレーニングを重ね、東京パラ参加権利獲得＝2019年世界選手権出場を目指して、邁進してもらいたい。

男子49kg級

6位 加藤尊士 117kg

7位 三浦浩 116kg

8位 奥山一輝 109kg

このクラスの第一人者三浦選手の第2, 3試技が通らず、三浦選手の背中を追ってきた加藤選手が三浦選手を上回り、6位入賞。このクラスは、奥山選手が、109kgを上げて、強化指定A選手となり、全員が強化指定A選手。世界選手権は、2名しか出場できないので、今後の熾烈なクラス内順位争いが展開されそうだ。



ジョンメニューをきちんとこなし、地道に力をつけて自己ベストをマーク、加藤選手

練習は順調にこなしていた三浦選手、スタート重量しか通らなかったのが痛かった。リオパラ5位の実力者。アジパラ、東京パラではメダルを狙ってもらいたい。



ジュニアから一般の部へ入ってきた奥山選手。一般の部の壁は厚いが、試合に出るたびに記録を伸ばし、強化指定選手Aランク入り。更なる記録向上で、上位陣を揺さぶってもらいたい。



赤判定ながら、140 kg を押した西崎選手。新たな記録の領域に足を踏み入れた。

気合の入った試技を見せる光瀬選手。あと1 kg。これを合言葉に更なる飛躍を！



男子54kg級

6位 西崎哲男 132 kg

9位 光瀬智洋 109 kg

10位 市川光典 103 kg

このクラスの第一人者、西崎選手が、確実な試技で132 kg に成功。念願の140 kg は挙げたものの、残念ながら赤判定、アジアパラでは、試技に磨きを掛けて、是非、140 kg を自分のものにしていただきたい。

二年前の新人発掘事業で合格した光瀬選手。年々記録を高め、109 kg まで伸びてきた。更なる飛躍で、世界選手権標準突破(110 kg)を目指していただきたい。あと、1 kg チャンスはあるぞ！

昨年のエレイコカップで、パラ・パワー初体験の市川選手。健常者のときは、ボルタリングをしていたとのこと、引き締まった上半身で、103 kg まで記録を伸ばす。更なる飛躍を待ち望みたい。

競技暦は1年。まだまだ、経験不足だが、一つ一つの試合を重ねて、記録を伸ばしてってもらいたい。



男子59kg級

6位 戸田雄也 126kg

8位 岡田有史 113kg



自己ベスト更新、戸田選手。世界標準、パラ標準を突破。後は、どれだけ記録を伸ばせるかに、東京パラがかかっている。アジアパラでの活躍も、請、期待！

肩の怪我に長年悩まされてきた岡田選手。トレーナーさんのケアで怪我からの脱出にほぼ成功。まだまだ、自己ベストには届かないが、ここからが勝負。がんばれがんばれ！

村井都稚夫選手は、エントリーするも、故障に参加を断念。医師の診断書が出ているので、東京パラ参加権利は残る。

男子 65 k g 級

10 位 佐野義貴 130 k g

11 位 城隆志 128 k g

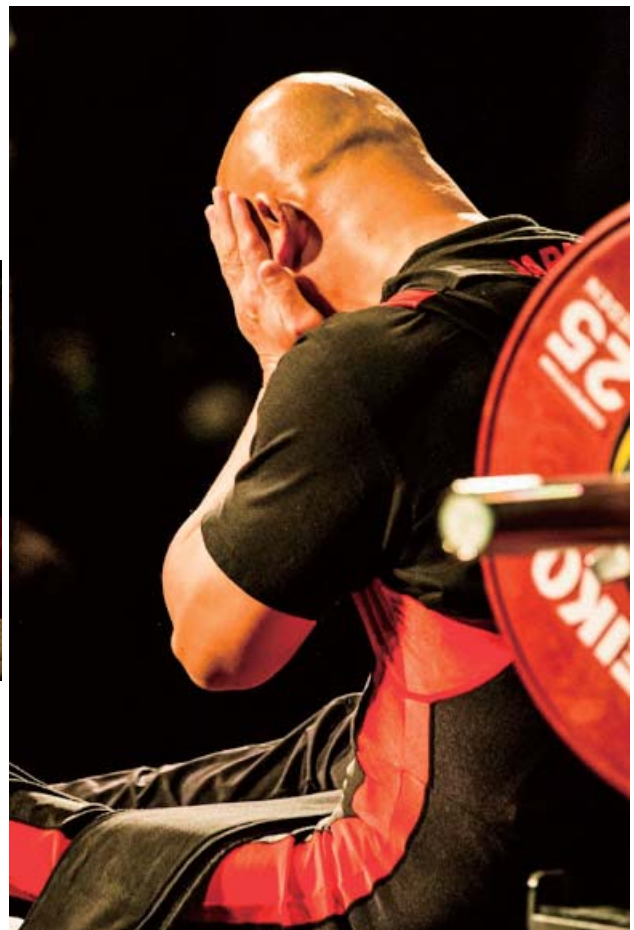
失格 篠田雅士



このクラス、長年君臨している城選手を佐野選手が破って、上位に。記録的には、肘の故障でこの2ヶ月練習をまともにしてこなかったので、低いですが、ここから、飛躍してくれることだろう。佐野選手に、期待。

日本選手の中で、一番競技暦の長い城隆志選手。フェスピック時代からパラパワーリフティングに挑む。(当時はウェイトリフティング) 東京パラでは還暦でも現役でいられることをアピールしたいと、日々、練習に余念がない。

新人、篠田雅士選手。障がいから来る、試技の不安定感がある。大分改善され、これで、OK と、送り出したが、残念ながら失格。さらに磨きを掛けて、白をもらえる試技作りに工夫を凝らしたい。力的には、佐野選手、城選手と拮抗。皆さんで競い合いながら記録をのばしてもらいたい。



男子72kg級

4位 樋口健太郎 165kg

8位 田中翔悟 146kg

9位 斉藤伸弘 146kg



つい、昨年の9月に交通事故で、切断。ベッドの中でパラパワーを目指そうと思ったと言うが、その精神力の強さに、驚くばかりだ。競技歴僅か一年で、アジア大会で4位入賞は、驚くべき快挙。さらに記録を目指して、東京パラランキングを上げていてもらいたい。(写真左)

65kgから一階級上げての初試合、田中選手。記録を20kgほど伸ばして、146kg。このクラス常勝の斉藤選手と同記録体重差、と、言う結果となった。今大会終了後、連盟強化指定A選手入り、さらに、実力を伸ばしていただきたい。(写真右下)

体調不良から、ようやく回復した斉藤選手。それでも、自己ベストまでであったという間に、記録を戻し、田中選手との激しいバトルを見せてくれた。体力の戻りとともに、記録も益々伸ばしていただきたい。(写真左下)



男子80kg級

4位 金谷晃央 135kg

5位 佐藤芳隆 135kg

失格 宇城元



上から、金谷選手。佐藤選手。

右は自分を見つめて試技に望む宇城選手。



ウェイトトレーニングが好きだと言う、金谷選手と佐藤選手。二人とも、二年前の全日本にひょこっとやって来て、パラ・パワーリフティングの試合に出る。

その後、順調に記録を伸ばし、二人とも135kgまで来た。素晴らしいことは、金谷選手4位、佐藤選手5位に入賞！

二人で競い合って、記録を伸ばして行ってもらいたい。

このクラスの日本の第一人者、宇城元選手。1月と5月に肘の手術。アジア大会出場をどうするか、迷っていたが、決心して出場。調整期間が短かったのかもしれない。思うように力を発揮できず、まさかの失格。

東京パラ参加権利は獲得しているので、今後、どのように調整をしていくか、医療関係者とも相談をしながら、東京パラに向かってもらいたい。

男子88kg級

3位 大堂秀樹 195kg

アジア大会、連盟、初のメダル。二年前のリオでは、肩の怪我に悩まされ思うように力を発揮できなかったが、この二年間、我慢のリハビリ。よく耐えて、念願のメダル。おめでとう！大堂選手！



男子97kg級

14位 石原正治 145kg

15位 馬島誠 145kg

パラリンピアンの二人、石原選手（車いすバスケット）、馬島選手（パラホッケー）、東京パラリンピックがくることで、パラ・パワーリフティングに再挑戦。さすがパラリンピアン、試合や試技に対する勘所が優れ、試合毎に記録を更新。このまま、二人で、東京に向かってもらいたい。



男子107kg級

7位 中辻克仁 198kg

試合、練習時の集中力は、中辻選手が群を抜いている。バーに挑む姿は鬼気迫り、記録は、生涯自己ベストをマーク。

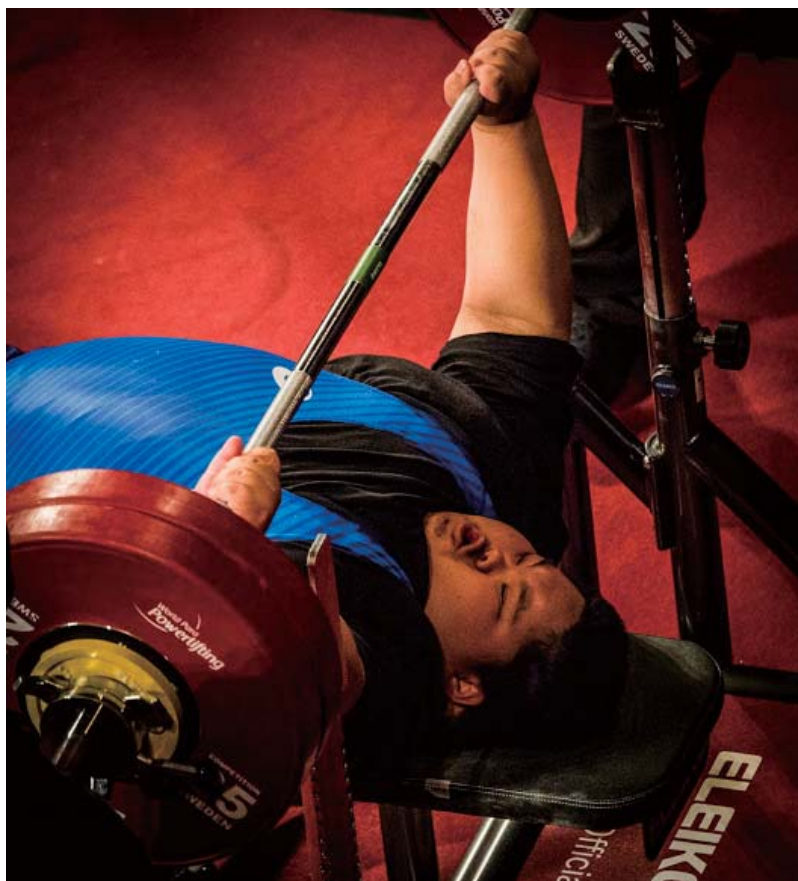
アジアパラでは、一ランク上の記録に挑戦し、メダル獲得を目指してもらいたい。



男子107+kg級

9位 松崎泰治 136kg
(ジュニア1位)

スーパーヘビー級、可愛いキャラクターで人気者の松崎選手。二本目は失敗したものの、第三試技で136kgをしっかりとゲット、アジアパラでは、ジュニアの部、メダル獲得を目指していただきたい。





*皆さんの力が集結した大会

アジアオセアニア大会を実現させるに当たり、本当にたくさんの方々のお力をお借りしました。皆様のお力添えなくして、この大会は成り立ちませんでした。連盟として、心から感謝申し上げます。

ありがとうございました。